

自閉症総合援助センター 萌葱の郷
豊後大野子育て総合支援センター

ASSIST

～芽吹く未来へ～



アトリイモエ展の様子

2016.10.1 発行

VOL.11

地域とともに

理事長 五十嵐 康郎
(全日本自閉症支援者協会副会長)



旧犬飼町給食センターの建物を「いぬかいこども園」の屋内運動場として改修し、同施設を中心会場として、7月9日(土)に、もえぎの郷地域交流祭「がんばるもん」を開催いたしました。また、同施設内の2室を豊後大野市社会福祉協議会にお貸しするなど、地域貢献にも積極的に取り組んでいます。

子育て総合支援センター「いぬかいこども園」「なかよしひろば」は、多くの地域のお子さんが利用されることで、地域の福祉資源になっています。また、豊後大野市民の方が多数当法人の職員として働いておられます。

大分市戸次地区にグループホーム用の土地・建物を購入するとともに、ケアホーム「かわしま」の増築工事を進めています。いずれの建物も住宅地の中にあり、地域との交流・共生を積極的に進めたいと考えています。

利用者の利便性を考慮し、大分県発達障がい者支援センターE C O A Lの事務所を大分市の県庁近くに移転いたしました。大分なごみ園を大分市東地区の早期療育の拠点とし、地域のニーズにお応えするために建物の増築工事を行っています。

どんこの里いぬかいは、国道10号線沿いに公衆トイレを提供し、地域との交流の場としてレストランを開設するとともに、障害のある方の就労の場(就労継続支援A型)づくりに取り組み、耕作放棄地を畑として蘇らせることで、地域貢献をしています。

発達障がい者支援専門員養成研修、発達障害支援スーパーバイザー養成研修において、年間を通して多くの実務研修者を受け入れていますが、受講者は福祉関係者に止まらず、教育関係者、医療関係者、行政など多岐にわたり、発達障がいの特性理解と専門性向上の貴重な学びの機会として、広く社会に貢献しています。

6月28日(火)から7月3日(日)までの6日間の日程で、県立美術館OPAMにおいて「アトリエMOE展」を開催しました。外部の専門家の方々のご協力により、ワークショップやトークイベント、業者等とのコラボによるショップ、さらには6月23日(木)に大分県立芸術文化短期大学人文棟大講義室において、映画「日常～めぶき園を訪ねて～」を上映し、監督二宮圭一氏の軽妙な語り口が、満席の参加者の感動と笑いを誘いました。展示会の入場者は1,500人を超え、何度も来場されたりピーターの方や多数の美術関係の方の来場もあり、期間中、来場者が途絶えることがありませんでした。

地域貢献の視点を中心に、最近の出来事を述べてまいりましたが、今後も地域とともにある事業運営を目指してまいりますので、ご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。





大分県発達障がい者支援センター ECOAL センター長 五十嵐 猛

平成28年3月2日に内閣府主催の青年国際交流事業青年社会活動コアリーダー育成プログラム参加者による発達障がい支援ネットワークの視察会が開催され、オーストラリア、ドイツ、イギリスから障害福祉分野でチーフ役を務めている13名と、大分のコアリーダーや事務局である内閣府を合わせた約20名が社会福祉法人萌葱の郷に訪れました。

理事長の歓迎のことばを皮切りに、大分県発達障がい者支援センター長である私から大分県発達障がい支援ネットワークについて、大分県発達障がい支援専門員養成研修を軸に約40分間説明させていただいた後、その成果と課題等について2時間ほどコアリーダーの方々と意見交換を行いました。

事業紹介の冒頭では聖徳太子から引き継がれている「和を以て尊しとなす」の精神を重んじて異業種間交流を進めていることを伝え、海外のコアリーダーから歓声があがり、日本文化への関心の高さをあらためて知ることができました。本養成研修は、これまでも支援者の専門性向上が図られたことと同時に、関係諸機関のネットワークが進んだことが国内にて評価されていますが、コアリーダーのみなさんからは、本研修を1からつくりあげた関係者の熱意と行動力を誇る言葉をたくさんいただきました。

意見交換の中では、西欧においてもスーパーバイザーの養成は盛んにすすめられていることや、その運営や活用、評価方法などを民間企業と連動しながらアピールしていることを教えていただくことができ、今後、私たちがスーパーバイザーの専門性向上を継続的に図ると同時に、個人やグループによる専門性や活動状況などについて、一般の方々にも見える形で情報提供をすすめていくことへの意識向上につながりました。

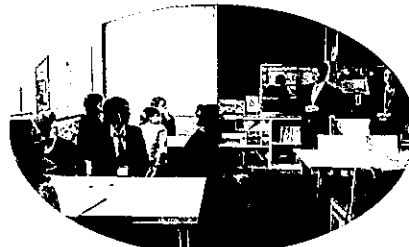
現場の視察においては、こども園と児童発達支援センターが併設していることや、研修終了後に就労支援施設どんこの里いぬかいレストラン内で当事者が働いている姿を目にできたこと、利用者の作品を陳列販売していること等がイクルーシブの実例として関心が集まりました。



Outcome of and challenges in approaches taken for expertise improvement and support network establishment at an organization engaged in support for developmental disabilities



Takashi Igurashi, Director
Oita Prefecture Support Center for Persons with Developmental Disabilities ECOAL
Social Welfare Corporation Mori-no-Sato
Children's Developmental Disability Support Center, Yukuhashi-cho
Inakoshi Endo-cho, Inakoshi Child-Rearing Support Center, Yukuhashi-cho



「平成28年熊本地震に伴う発達障害者支援センターへの職員派遣」について

大分県発達障がい者支援センターECOAL 支援員 斉藤範子

平成28年4月に発生した熊本地震により、避難所生活を余儀なくされている発達障がい児・者の方々への支援と熊本県発達障害者支援センター「わっふる」の業務の負担を少しでも軽減するために、厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部障害福祉課と一般社団法人日本自閉症協会、全国発達障害者支援センター連絡協議会との協議のなかで、各都道府県のセンター職員が熊本に派遣されることとなりました。

私も微力ながら、6月19日(日)~24日(金)まで「わっふる」にお手伝いに行ってきました。主な活動は、益城町の広安小学校と総合体育館に設置された「生活総合相談窓口」における相談業務でした。生活する上での困りに寄り添い、侵襲的にならないように心がけました。また、保健師をはじめ介護福祉士、作業療法士等様々な職種の方が他県から来て業務にあたっていましたので、発達障がい関連のケースが出た場合は「わっふる」に繋いでもらえるように情報のやりとりや職種間の連携に細心の注意をはらいました。

派遣期間中の話し合いのなかで、発達障がい者支援センターの役割について①皆様にセンターを知っていただくこと(啓発活動)と②災害に備える療育の提案があげられました。災害時に「どこに相談すればいいの?」という心配を減らすために、当事者をはじめ、他機関関係者に広くセンターを知っていただくことや、電気が使えない場合、テレビを使う遊び(DVDやゲームなど)はできないので、平常時から電気がなくてもできる遊びを増やしておくことや、非常食(カップラーメンなど)を食べる練習を少しずつしておくことが大切であると考えます。

今回の派遣を通して、イコールもできることから始めていきたいと思います。最後になりましたが、被災されました皆様が一日も早く日常生活を取り戻されますよう、心よりお祈り申し上げます。

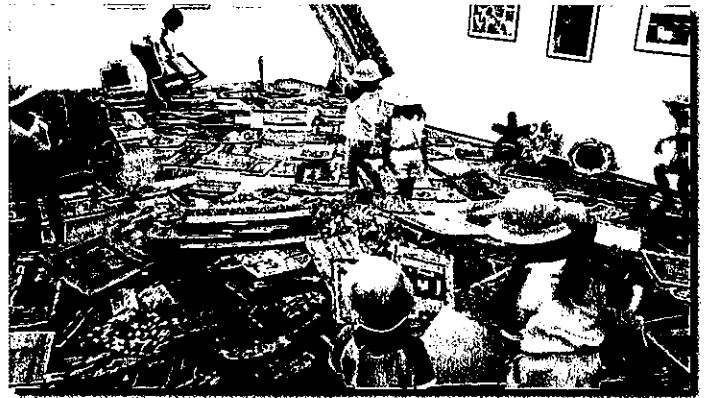
アトリエMOE“ART and LIFE”展 開催



6月28日(火)から7月3日(日)までめぶき園利用者による作品展「アトリエMOE“ART and LIFE”展」が大分県立美術館OPAMで開催されました。6日間の展示期間中に延べ1,517名の方にご来場いただきました。期間中はたくさんの方にご覧いただき今後の励みになりました。足を運んでいただいた皆様始め、多くの方に支えられ、無事、会期を終えることができました。

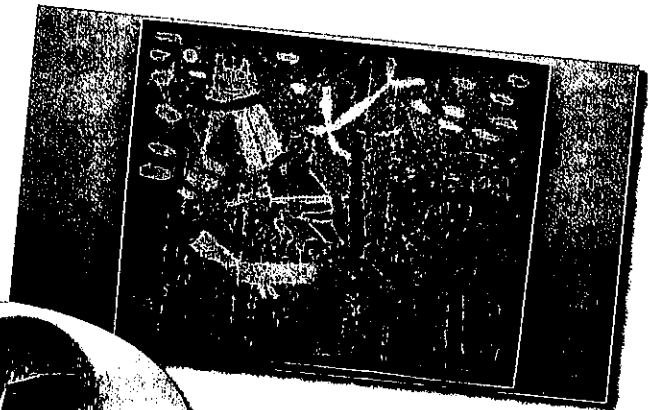
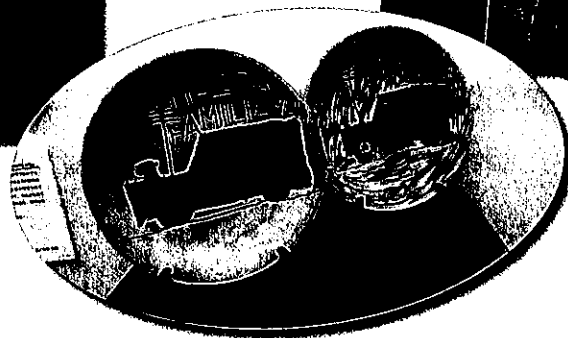
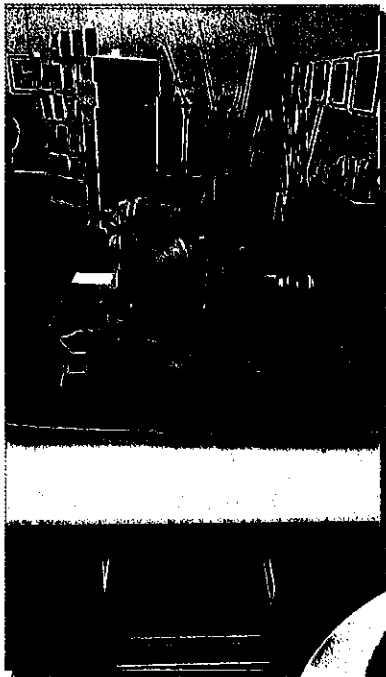
音で描くめぶき園の日常

会場入口を入るとめぶき園での一日の生活音が聞こえてきます。ReNTReC. 日名子英明さんに依頼し、めぶき園の音を録って頂きました。支援員として働く中で、普段聞いている利用者の声や音がこんなにも心地の良い音かと思いながら会場内で流れる音を聞いていました。



ワークショップ「省吾さんと歩く」

めぶき園利用者の佐藤省吾さんが作りためたダンボールモザイクの作品を並び替えながら来場者と一緒に移動していくワークショップを開催しました。期間中は、沢山の方に参加して頂き、省吾さんの作品を床一面に敷き詰める、壁に並べてみる、高く積み上げる、作品同士を立て掛けるなど、来場者の方、それぞれが省吾さんの作品とコラボしていました。



映画「日常～めぶき園を訪ねて～」

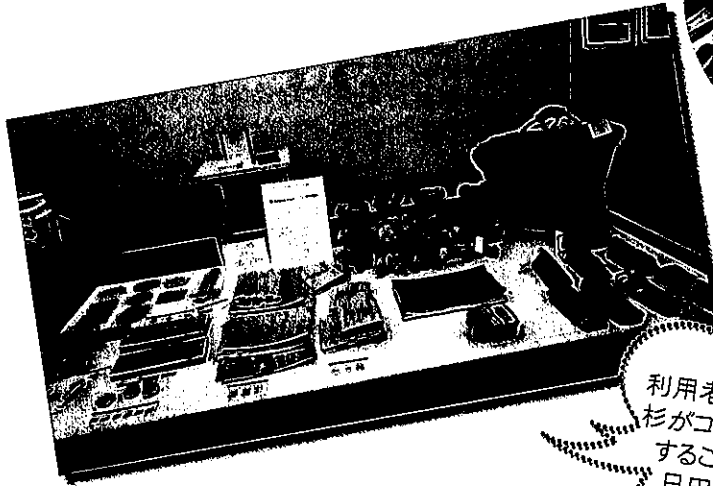
美術家の二宮圭一氏に、めぶき園の1日の様子を映像に撮って頂き、6月23日(木)に大分県立芸術文化短期大学 人文棟大講義室にて上映会を開催しました。当日は、平日であるにも関わらず立ち見が出るほどの大盛況で、沢山の方に鑑賞して頂きました。

展示期間中も、会場内にてショートフィルムを流すことで、上映会に参加できなかった方にも鑑賞して頂くことができました。また、利用者の作品制作の様子を少しでも多くの人に知ってもらえることができました。

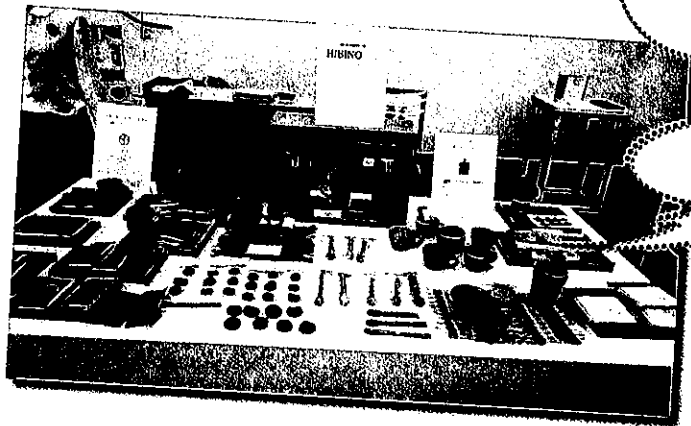


LIFE produce

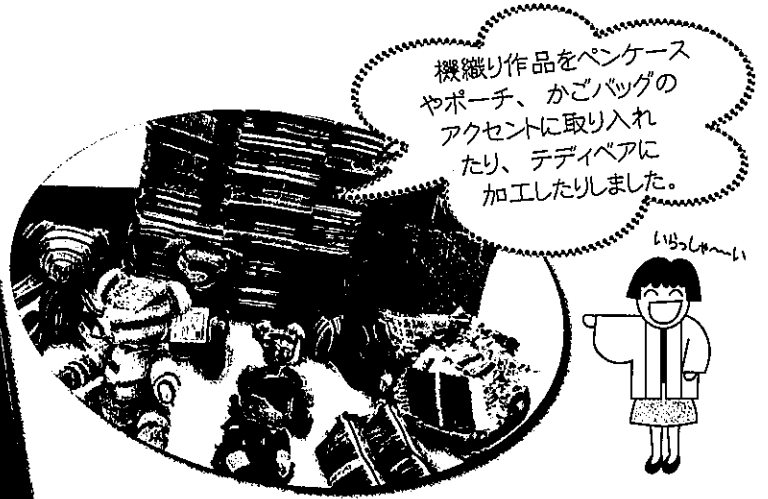
多くの方にご協力いただき、利用者の作品は生活を潤すアイテムとして「持ち帰る」ことのできる作品へ加工。期間中会場にて販売を行いました。



利用者の作品と日田杉がコラボレーションすることで作品から日田杉の良い香りがしていました。



会場内で展示されている絵が手ぬぐいやコーヒーやラスクのパッケージに。絵はがきに。ビスケットの焼印だったり。



機織り作品をペンケースやポーチ、かごバッグのアクセントに取り入れたり、テディベアに加工したりしました。

どの作品も期間終了を待つ間もなく、完売しました。作品や製品が障がいの有無に関わらず、誰にとっても役に立つものであることで「利用者が作者として社会貢献」ができたのではないのでしょうか。期間中、在庫が足りず「残念ながら購入できなかった」というお言葉を多数いただきましたので、今後の課題とさせていただきます。

トークイベント「めぶき園の日常」最終日

「めぶき園の日常」というテーマで、映画を撮って頂いた二宮圭一氏とアート課講師の木村秀和氏、めぶき園園長の五十嵐康郎3名で最終日にトークイベントを開催しました。当日は、他の期間を上回る来場者で会場は埋め尽くされました。

アトリエMOE展を開催するまでの経緯、作品が出来上がるまでの様子、行動障害（自傷や他害など）が激しく、課題行動が多い中での職員との関わりから行動障害が減っていっためぶき園開園当初の話など、ここでしか聞けない話を聞くことができました。

予定では1時間のところでしたが、笑いあり、涙ありの盛り上がりで予定時間を越えてしまいました。トークイベント終了後は、利用者から花束贈呈があり、良いトークイベントになりました。



平成28年7月11日(月)～12日(火)、九州・山口・四国の自閉症施設協議会の加盟8施設42名が参加し、2日間にわたって職員研修会が開催されました。

まずは、からだの教室Laugh主宰の阿部京子氏を講師としてお迎えし、「自閉症の動作法」と題して、ご講演いただきました。「動作法とは何か?」というところから始まり、動作法におけるコミュニケーションや課題、発達障がい児者に対する動作法の効果と適用について、実際の動作法の場面の映像を交えながらのお話は、多くの方に興味を持っていただけたようでした。その後、児童コース(いぬかいこども園・なかよしひろば)と成人コース(めぶき園・どんこの里いぬかい)に分かれて、施設見学を行いました。

2日目は、「日中活動の取り組みについて」と「夜間・休日及び余暇支援の取り組みについて」というテーマで2グループに分かれて、それぞれの施設より発表していただきました。事例に対してどのようにとらえ、対応策を検討し、取り組みを進めていったのか?という具体的な説明を踏まえ、成功事例はもちろんのこと、実際に取り組みを進めていく中で別の課題が発生したり…といったお話がありました。その中で、「うちの施設では～」「こうしてみても～?」という意見も多く出していただき、「なるほど!」と新たな発見が見つかることもあり、活発な意見交換の場となりました。

また、社会福祉法人三気の会三気の里(熊本県)より4月の熊本地震についての現況報告があり、実際の被害状況及び対応、これからの課題についてお話がありました。幸いなことに、入所されている利用者の方に大きな怪我等はなく、慣れない避難生活を送らなければならない状況にありながらも、比較的落ち着いて過ごして下さったとの報告を伺い、「良かった…」と安堵しました。しかし、「もし、自分たちの施設で同じような状況に置かれたら…」と考えると、どのように利用者の方を避難させれば良いのか、緊急時の備品は揃っているか、何が必要か等きちんと見直しておかなければならない課題がたくさんあることに気づきました。

この2日間の研修では、利用者の方が24時間365日安心・安全に、そして充実した人生を過ごしていくために、私たち支援員はどのように支援に携わっていくべきなのかといったことを、様々な角度から考えさせられた研修となりました。



● 法人主催、強度行動障害支援者養成研修(基礎・実践)の報告 ●

大分なごみ園 園長 福田和彦

今年度、大分県の指定許可を受け、法人主催「強度行動障害支援者養成研修」を5月～7月にかけて開催しました。この研修では、強度行動障がいの定義やどのような障がい特性があるかを学び、本人の持つ障がい特性や置かれている環境要因との関係で「強度行動障がい」となり得ることを理解しました。その上で、表面上に出ている課題となる行動だけに捉われずに、その背景にある環境要因や本人の障がい特性を考えることを具体的な演習で取り組みました。

更に、4つのプロセス(障がい特性、本人の得意な事(強み)、新たな環境設定など)を段階的に考え、よりよい支援の組み立てを個人ワークやグループ討論を通して学びました。今回、法人職員のみならず外部事業所の方の参加もあり、グループで真剣な討論が行われ、多角的な視点で、多種多様な利用者への支援方法が具体的に提案されるなど、有意義な研修になりました。

この研修を通じて、利用者の方の気持ちを理解する大切さと一人で抱え込まず、チームとして支援をして行く事の大切さを改めて学びました。また、この研修を受けることで研修修了者としての資格が取れ、施設支援での手厚い支援体制(重度障害者加算)がとられたり、行動援護(訪問系)としての資格になったりもします。研修で学んだことを、それぞれの実践現場で活かしていただければと思います。



2015年度 会計処理等取扱指導指針

<http://www.moeginosato.net/>

貸借対照表		資産の部		負債の部	
流動資産	279,954,940円	流動負債	43,052,686円		
固定資産	642,408,093円	固定負債	120,931,672円		
		負債の部合計	163,984,358円		
		純資産の部			
		基本金	56,415,470円		
		国庫補助金等特別積立金	108,320,503円		
		その他の積立金	0円		
		次期繰越活動収支差額	593,642,702円		
		純資産の部合計	758,378,675円		
資産の部合計	922,363,033円	負債及び純資産	922,363,033円		

資金収支計算書 ※「指針収支計算書」		勘定科目		決算	
就労事業による収支	収入				11,943,420円
	支出				5,839,311円
	就労事業資金収支差額				6,104,109円
事業活動による収支	収入				569,415,353円
	支出				495,867,870円
	事業活動資金収支差額				73,547,483円
施設整備等による収支	収入				105,410,000円
	支出				159,266,332円
	施設整備資金収支差額				△53,856,332円
当期資金収支差額合計					25,795,260円
前期末支払資金残高					221,035,361円
当期末支払資金残高					246,830,621円

事業活動計算書		勘定科目		決算	
就労活動収入計					11,943,420円
就労活動支出計					5,858,271円
就労活動収支差額					6,085,149円
事業活動収入計					563,614,403円
事業活動支出計					519,000,357円
事業活動収支差額					44,614,046円
事業活動外収入計					5,800,950円
事業活動外支出計					49,862円
事業活動外収支差額					5,751,088円
経常収支差額					50,365,134円
特別収入計					5,410,000円
特別支出計					0円
特別収支差額					5,410,000円
当期活動収支差額					61,860,283円
前期繰越活動収支差額					531,782,419円
当期末繰越活動収支差額					593,642,702円
その他の積立金取崩額					0円
その他の積立金積立額					0円
次期繰越活動収支差額					593,642,702円

財産目録		勘定科目		決算			
資産の部	流動資産	現金預金			160,464,916円		
		未収金			99,689,849円		
		商品・製品			79,633円		
		立替金			1,550,834円		
		前払金			3,354,993円		
		短期貸付金			0円		
		その他の流動資産			14,814,715円		
		合計			279,954,940円		
		固定資産	基本財産	建物			317,434,182円
				土地			60,891,820円
預金					0円		
その他の基本財産					0円		
合計				378,326,002円			
その他	建物					123,171,431円	
	構築物					30,339,220円	
	車両運搬具					15,770,206円	
	器具および備品					17,866,260円	
	土地					32,416,171円	
	機械・装置				5,751,087円		
施設・設備等積立金				0円			
退職共済預け金				30,939,672円			
ソフトウェア				228,880円			
敷金・保証金等預け金				493,640円			
その他の固定資産				7,105,524円			
合計				264,082,091円			
資産の部合計					922,363,033円		
負債の部	流動負債	短期運営資金借入金			10,008,000円		
		未払金			25,508,402円		
		預り金			57,091円		
		その他の流動負債			7,479,193円		
	合計			43,052,686円			
	固定負債	長期設備等借入金				89,992,000円	
退職給与引当金					30,939,672円		
その他の固定負債					0円		
合計				120,931,672円			
負債の部合計					163,984,358円		

～ もえぎの郷・地域交流祭 ～ 『がんばるもん』



祭り実行委員長 田中 秀征

社会福祉法人萌葱の郷では、めぶき園開園当初から、地域の方々との交流を深めるために「めぶき園まつり」を毎年開催してきましたが、障害福祉制度の改変等の諸事情から、平成20年11月開催を最後に休止していました。かねてから「めぶき園まつり」復活へのご期待があったことに加え、平成28年4月に発生した熊本・大分地震の震災復興を目的に、平成28年7月9日(土)「もえぎの郷地域交流祭 がんばるもん」を開催いたしました。

オープニングでは、いぬかいこども園の園児による太鼓やダンスを披露し、開会行事の後は地域の方々による黒松神楽や犬飼親子フラダンス、手品、犬江太鼓等を披露してくれました。また、めぶき園・ケアホームかわしまの利用者によるハンドベル演奏もあり、会場は大いに盛り上がりました。午後からは、観客参加型イベントや、熊本県より、人形劇ぱっとさんに来ていただき「ピノキオ」を観劇しました。普段なかなか見られない人形劇に、子どもも大人も楽しんでいました。さらに大分トリニータの伊佐選手と大津選手が来場され、トークショーやじゃんけん大会、サイン会など皆一緒に楽しみました。屋外会場では、厨房職員によるグルメ対決、福引き、バザーなどが開催されました。

限られた期間で実行委員を中心に法人職員一丸となって、一生懸命に準備してきました。前日には大雨が降り、当日も大雨が降るのではないかと半ば諦めていましたが、天候にも恵まれ、500名以上の方にご来場いただきました。

今回の祭りが成功したのもひとえに皆様方から頂きましたご協力の賜物と心より感謝とお礼を申し上げます。尚、来年度以降も「もえぎの郷地域交流祭」を開催していく予定ですので、今後とも皆様のご支援並びにご協力をよろしくお願い申し上げます。



障害者支援施設 めぶき園(法人本部)
大分県豊後大野市犬飼町下津尾4355-10
TEL097-578-0818
FAX097-578-0819
mebukien@moeginosato.net
ホームヘルプサービスセンター らすかる
大分県豊後大野市犬飼町下津尾4355-10
TEL097-578-1888
FAX097-578-0819
rasukaru@moeginosato.net
相談支援事業所 プラス
大分県豊後大野市犬飼町下津尾4355-10
TEL097-578-0818
FAX097-578-0819

いぬかいこども園
大分県豊後大野市犬飼町田原1419番地
TEL097-578-0706
FAX097-578-0710
inukai-hoikuen@moeginosato.net

いぬかいこども園 なかよしホール
大分県豊後大野市犬飼町田原 1421-40

**こども発達・子育て支援センター
なかよしひろば**
いぬかい子育て支援センターゆうゆうキッズ(なかよしひろば内)
大分県豊後大野市犬飼町田原 1414番地 1
TEL097-586-8811
FAX097-586-8818
nakayoshi@moeginosato.net

こども発達・才能支援センター なごみ
大分県豊後大野市犬飼町大寒2149番地1
TEL097-586-8070
FAX097-586-8071
nagomi@moeginosato.net

障害福祉サービス事業所 どんこの里いぬかい
大分県豊後大野市犬飼町久原1863番地8
TEL097-578-0077
FAX097-578-1226
donko@moeginosato.net

ケアホーム かわしま
大分県豊後大野市犬飼町下津尾3709-8
TEL097-578-0885

大分県発達障がい者支援センター ECOAL
大分市中島西1丁目4番14号市民の権利ビル202
(移転しました)
TEL097-513-1880
FAX097-513-1890
ecoal@moeginosato.net

こども発達支援センター 大分なごみ園
大分県大分市丹生210-3
TEL097-524-3636
FAX097-524-3637
oita.nagomien@gmail.com



日本財団さんの平成27年度福祉車両助成事業により日産キャラバンを助成していただきました。

協力者御芳名

伊美 信長様 久保平 明様 古庄 優子様
堀内 佳輔様 柿坂 典子様

編集 後記

今年度は、初めての取り組みとしてアトリエMOE展、そして萌葱の郷全体を挙げた祭り「がんばるもん」が開催されるなど、私たち広報委員も慌ただしさの中に充実感を感じる日々を過ごしています。この Assist も vol.11 を迎え発行部数を増やしました。今年度後半もより良い記事を作っていけるようがんばりたいと思います。

